

記入例

不明な点がございましたら、申請前に農業委員会事務局（市農政課）までお問合せください。

農地法第3条の規定による許可申請書

※押印は無くてもかまいませんが、印が無い申請書において修正があった場合は差しかえとなります。
 ※押印する場合は認印で構いません。

令和 年 月 日

日進市農業委員長 殿

<譲渡人（貸人）>

住所

氏名

※ 売る人、貸す人について記入します。

<譲受人（借人）>

住所

氏名

※ 買う人、借りる人について記入します。

下記 **[農地・採草放牧地]** について、**[所有権・貸借権・使用貸借]** による権利を **[設定・移転]** したいので、農地法第3条第1項に規定する許可を申請します。
 （該当する内容に○印で囲んでください。）

記

1 当事者の氏名等

当事者	氏名（フリガナ）	年齢	職業	住所	国籍等	在留資格又は特別永住者
譲渡人（貸人）						
譲受人（借人）						

2 許可を受けようとする土地の所在等（土地の登記事項証明書を添付してください。）

所在・地番	地目		面積 (㎡)	対価、賃料 等の額（円） 〔10a 当たり の額〕	所有者の氏名 又は名称 〔現所有者が登記 簿と異なる場合〕	所有権以外の使用収益権 が設定されている場合	
	登記簿	現況				権利の種類 、内容	権利者の氏 名又は名称
				()	()		
				()	()		
				()	()		
				()	()		
				()	()		
計	田						
	畑						

3 権利を設定し、又は移転しようとする事由の詳細

当事者	権利移転の事由
譲渡人 (貸人)	※設定・移転の理由(売る人、貸す人)を正しく、わかりやすく書いて下さい。 例:高齢により営農が困難になったため。
譲受人 (借人)	※設定・移転の理由(買う人、借りる人)を正しく、わかりやすく書いて下さい。 例:現在営農している農地に近く、農作業にも都合が良いことから、規模拡大を図るため。

4 権利を設定し、又は移転しようとする契約の内容

※どのような契約を結び、農地をいつから使うかなどについて記入します。

権利の種類	
権利を移転し、又は設定しようとする時期	許可日 又は 令和 年 月 日
土地の引き渡しをしようとする時期	許可日 又は 令和 年 月 日
契約期間	年 月 日 から 年 月 日
備考	

5 その他参考となるべき事項

(記載要領)

- 1 法人である場合は、住所は主たる事務所の所在地を、氏名は法人の名称及び代表者の氏名をそれぞれ記載し、定款又は寄附行為の写しを添付（独立行政法人及び地方公共団体を除く。）してください。なお、年齢の記載は省略してください。
- 2 国籍等は、住民基本台帳法(昭和42年法律第81号)第30条の45に規定する国籍等（日本国籍の場合は、「日本」）を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国（内国法人の場合は、「日本」）を記載してください。
- 3 競売、民事調停等による単独行為での権利の設定又は移転である場合は、当該競売、民事調停等を証する書面を添付してください。
- 4 記の4は、権利を設定又は移転しようとする時期、土地の引渡しを受けようとする時期、契約期間等を記載してください。また、水田裏作の目的に供するための権利を設定しようとする場合は、備考欄に水田裏作として耕作する期間の始期及び終期並びに当該水田の表作及び裏作の作付に係る事業の概要を併せて記載してください。

※「所有地」・「所有地以外の土地」いずれも、農業委員会が発行する農地基本台帳等と差異が無いように記入してください。(市外の農地も対象です。)

添付資料 1

I 一般申請記載事項

※「世帯員等」とは、住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は養畜の事業に従事するその他の2親等内の親族をいいます。

<農地法第3条第2項第1号関係>

1-1 権利を取得しようとする者又はその世帯員等が所有権等を有する農地及び採草放牧地の利用の状況

		農地面積 (㎡)			採草放牧地面積 (㎡)	
		田	畑	樹園地		
所有地	自作地	※ 買う・借りる人やその家族が所有している農地のうち、きちんと自分たちで耕作している農地について記入します。				
	貸付地	※ 買う・借りる人やその家族が所有している農地のうち、人に貸していてその人がきちんと耕作している農地について記入します。				
		所在・地番	地目		面積	状況・理由
			登記簿	現況		
	非耕作地	※ 買う・借りる人やその家族が所有している農地(人に貸している農地も含まれます。)のうち、耕作されていない農地について記入します。				

		農地面積 (㎡)			採草放牧地面積 (㎡)	
		田	畑	樹園地		
所有地以外の土地	借入地	※ 買う・借りる人やその家族が人から借りている農地のうち、きちんと耕作している農地について記入します。				
	貸付地	※ 買う・借りる人やその家族が人から借りている農地のうち、人に貸していてその人がきちんと耕作している農地について記入します。				
		所在・地番	地目		面積	状況・理由
			登記簿	現況		
	非耕作地	※ 買う・借りる人やその家族が人から借りている農地(人に貸している農地も含まれます。)のうち、耕作されていない農地について記入します。				

(記載要領)

- 「自作地」、「貸付地」及び「借入地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されているものの面積を記載してください。※ 家族の死亡により農地を一時的に貸している場合などで、転貸禁止の例外として農地法第3条の許可を受けているもの。
 なお、「所有地以外の土地」欄の「貸付地」は、農地法第3条第2項第6号の括弧書きに該当する土地です。
- 「非耕作地」には、現に耕作又は養畜の事業に供されていないものについて、筆ごとに面積等を記載するとともに、その状況・理由として、「～であることから条件不利地である」、「賃借人〇〇が〇年間耕作を放棄している」、「～のため〇年間休耕中である」等耕作又は養畜の事業に供することができない旨を詳細に記載してください。

1-2 権利を取得しようとする者又はその世帯員等の機械の所有の状況、農作業に従事する者の数等の状況

(1) 作付（予定）作物、作物別の作付面積 ※ 1-1の面積の作付け状況と今回の申請地の面積の合算を記入します。面積はそれぞれの地目の合計と合致すること。

	田	畑			樹園地		採草放牧地	合計
作付(予定)作物								
権利取得後の面積 (m ²)	()	()	()	()				

(2) 大農機具又は家畜 ※ 二毛作等を行う場合は、主な作付作物以外の作物の面積についてはかっこ書きで記入します。

数量	種類					
	確保しているもの	所有				
リース						
導入予定のもの	所有					
	リース					
(資金繰りについて)						

(記載要領)

- 「大農機具」とは、トラクター、耕うん機、自走式の田植機、コンバイン等です。「家畜」とは、牛、豚、鶏等です。
- 導入予定のものについては、自己資金、金融機関からの借入れ（融資を受けられることが確実なものに限る。）等資金繰りについても記載してください。
- 「確保しているもの」、「導入予定のもの」のそれぞれについて所有又はリースの別に該当欄に記入してください。

(3) 農作業に従事する者 ※ 買う・借りる人について記入します。

① 権利を取得しようとする者が個人である場合には、その者の農作業経験等の状況		
農作業歴 年	農業技術修学歴 年	その他 ()
② 世帯員等その他 常時雇用している 労働力 (人)	現在:	(農作業経験の状況:)
	増員予定:	(農作業経験の状況:)
③ 臨時雇用労働力 (年間延人数)	現在:	(農作業経験の状況:)
	増員予定:	(農作業経験の状況: ※ 買う・借りる人の従業員について記入します。)

④ ①～③の者の住所地、拠点となる場所等から権利を設定又は移転しようとする土地までの平均距離又は時間

平均距離	平均時間
km	自動車 ・ 自転車 ・ 徒歩 () 分

(記載要領)

- 平均時間の「自動車・自転車・徒歩」には、該当する欄に○印を記入してください。

<農地法第3条第2項第2号関係> (権利を取得しようとする者が農地所有適格法人である場合のみ記載してください。)

2 その法人の構成員等の状況 (必ず「別紙」に記載し、添付してください。)

<農地法第3条第2項第3号関係>

3 信託契約の内容等 (信託の引受けにより権利が取得される場合のみ記載してください。それ以外は無に○を記載。)

信託契約の有・無	信託契約の内容 (信託契約が有の場合のみ記載して下さい。)
有 ・ 無	

<農地法第3条第2項第4号関係> (権利を取得しようとする者が個人である場合のみ記載してください。)

4 権利を取得しようとする者又はその世帯員等のその行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業への従事状況 (「世帯員等」とは、住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作又は養畜の事業に従事するその他の2親等内の親族をいいます。)

(1) その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業へ常時従事している者の氏名等

	常時従事者の氏名	年齢	主たる職業	権利取得者との関係	農作業従事日数
世帯員等	ア				
	イ	※農地基本台帳等を参考にして、申請者と住居及び生計を一にする親族並びに当該親族の行う耕作などに従事する2親等内の親族について記入します。			
	ウ				
	エ				

(2) その者の農作業への従事状況 (該当する期間(実績又は見込み)を「←→」で示してください。)

	作目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間				※詳細の記入を省略することも可能です。 その場合「営農計画書のとおり」と記入します。									
その者が農作業に常時従事する期間	ア												
	イ												
	ウ												
	エ												

(「農作業に常時従事する期間」とは、その期間、必要な農作業(耕うん、播種、施肥、刈取り等)にいつでも従事できる状態にあることをいいます。)

<農地法第3条第2項第5号関係> ※該当する項目の□に「レ点」を記入します。

5 農地又は採草放牧地につき所有権以外の権原に基づいて耕作又は養畜の事業を行う者（借借人等）が、その土地を貸し付け、又は質入れしようとする場合には、以下のうち該当するものに印を付してください。

借借人等又はその世帯員等の死亡等によりその土地について耕作、採草又は家畜の放牧をすることができないため一時貸し付けようとする場合である。

借借人等がその土地をその世帯員等に貸し付けようとする場合である。

その土地を水田裏作（田において稲を通常栽培する期間以外の期間稲以外の作物を栽培すること。）の目的に供するため貸し付けようとする場合である。

（表作の作付内容＝、裏作の作付内容＝） ※該当する場合、1-2の面積と合致するよう記入します。

農地所有適格法人の常時従事者たる構成員がその土地をその法人に貸し付けようとする場合である。

<農地法第3条第2項第6号関係>

6 周辺地域との関係

権利を取得しようとする者又はその世帯員等の権利取得後における耕作又は養畜の事業が、権利を設定し、又は移転しようとする農地又は採草放牧地の周辺の農地又は採草放牧地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響を以下に記載してください。

（例えば、集落営農や経営体への集積等の取組への支障、農薬の使用法の違いによる耕作又は養畜の事業への支障等について記載してください。）

例：取得する農地の周囲は畑作地帯であり、取得後もこれまでどおり◆◆◆の栽培をしますので、周辺の農地に悪影響は及ぼしません。また、農薬の使用法については、地域の防除基準に従います。

※以下「添付資料2」は、貸借の権利設定の場合、記入します。

添付資料2

II 使用貸借又は賃貸借に限る申請での追加記載事項

権利を取得しようとする者が、農地所有適格法人以外の法人である場合、又は、その者又はその世帯員等が農作業に常時従事しない場合には、添付資料1の記載事項に加え、以下も記載してください。

<農地法第3条第3項第2号関係>

7 地域との役割分担の状況

地域の農業における他の農業者との役割分担について、具体的にどのような場面でどのような役割分担を担う計画であるかを以下に記載してください。

(例えば、農業の維持発展に関する話し合い活動への参加、農道、水路、ため池等の共同利用施設の取決めへの遵守、獣害被害対策への協力等について記載してください。)

例：・地域の水利調整方法委を遵守し、水路清掃や除草作業に参加し、用排水路の管理に努めます。
・地域の農地の利用調整に協力します。
・農薬の使用方法等について、地域の防除基準に従います。

<農地法第3条第3項第3号関係> (権利を取得しようとする者が法人である場合のみ記載してください。)

8 その法人の業務を執行する役員又は重要な使用人のうち、その法人の行う耕作又は養畜の事業に常時従事する者の氏名及び役職名並びにその法人の行う耕作又は養畜の事業への従事状況

氏名	役職名	その者の耕作又は養畜の事業への従事状況	
		その法人が耕作又は養畜の事業（労務管理や市場開拓等を含む）を行う期間	そのうちその者が該事業に参画・関与している期間
		か月／年	か月／年(直近の実績) か月／年(見込み)
		か月／年	か月／年(直近の実績) か月／年(見込み)
		か月／年	か月／年(直近の実績) か月／年(見込み)

※以下「添付資料3」は、特殊な事由により権利を設定・移転する場合に記入します。
例：農地の空中又は地下を利用する権利設定の場合など

添付資料3

Ⅲ 特殊事由により申請する場合の記載事項

9 以下のいずれかに該当する場合は、該当するものに印を付し、Ⅰの記載事項のうち指定の事項を記載するとともに、それぞれの事業・計画の内容を「事業・計画の内容」欄に記載してください。

(1) 以下の場合は、Ⅰの記載事項全ての記載が不要です。※該当する項目の□に「レ点」を記入します。

- その取得しようとする権利が地上権(民法(明治29年法律第89号)第269条の2第1項の地上権)又はこれと内容を同じくするその他の権利である場合
(事業・計画の内容に加えて、周辺の土地、作物、家畜等の被害の防除施設の概要と関係権利者との調整の状況を「事業・計画の内容」欄に記載してください。)
- 農業協同組合法(昭和22年法律第132号)第10条第2項に規定する事業を行う農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同項の委託を受けることにより農地又は採草放牧地の権利を取得しようとする場合、又は、農業協同組合若しくは農業協同組合連合会が、同法第11条の50第1項第1号に掲げる場合において使用貸借による権利若しくは賃借権を取得しようとする場合
- 権利を取得しようとする者が景観整備機構である場合
(景観法(平成16年法律第110号)第56条第2項の規定により市町村長の指定を受けたことを証する書面を添付してください。)

(2) 以下の場合は、Ⅰの1-2(効率要件)、2(農地所有適格法人要件)以外の記載事項を記載してください。※該当する項目の□に「レ点」を記入します。

- 権利を取得しようとする者が法人であって、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地における耕作又は養畜の事業がその法人の主たる業務の運営に欠くことのできない試験研究又は農事指導のために行われると認められる場合
- 地方公共団体(都道府県及び地方開発事業団を除く。)がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を公用又は公共用に供すると認められる場合
- 教育、医療又は社会福祉事業を行うことを目的として設立された学校法人、医療法人、社会福祉法人その他の営利を目的としない法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該目的に係る業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合
- 独立行政法人農林水産消費安全技術センター、独立行政法人家畜改良センター又は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその業務の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合

※該当する項目の□に「レ点」を記入します。

(3) 以下の場合、Iの2(農地所有適格法人要件)以外の記載事項を記載してください。

- 農業協同組合、農業協同組合連合会又は農事組合法人(農業の経営の事業を行うものを除く。)がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を稚蚕共同飼育の用に供する桑園その他これらの法人の直接又は間接の構成員の行う農業に必要な施設の用に供すると認められる場合
- 森林組合、生産森林組合又は森林組合連合会がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその行う森林の経営又はこれらの法人の直接若しくは間接の構成員の行う森林の経営に必要な樹苗の採取又は育成の用に供すると認められる場合
- 乳牛又は肉用牛の飼養の合理化を図るため、その飼養の事業を行う者に対してその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成して供給し、又はその飼養の事業を行う者の委託を受けてその飼養の対象となる乳牛若しくは肉用牛を育成する事業を行う一般社団法人又は一般財団法人が、その権利を取得しようとする農地又は採草放牧地を当該事業の運営に必要な施設の用に供すると認められる場合

(留意事項)

上述の一般社団法人又は一般財団法人は、以下のいずれかに該当するものに限ります。該当していることを証する書面を添付してください。

- ・ その行う事業が上述の事業及びこれに附帯する事業に限られている一般社団法人で、農業協同組合、農業協同組合連合会、地方公共団体その他農林水産大臣が指定した者の有する議決権の数の合計が議決権の総数の4分の3以上を占めるもの
 - ・ 地方公共団体の有する議決権の数が議決権の総数の過半を占める一般社団法人又は地方公共団体の拠出した基本財産の額が基本財産の総額の過半を占める一般財団法人
- 東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社又は西日本高速道路株式会社がその権利を取得しようとする農地又は採草放牧地をその事業に必要な樹苗の育成の用に供すると認められる場合

(事業・計画の内容)

例:申請地の地下●mに、別添図面のとおり自己の住宅用の排水管(管種・管径)を敷設する計画です。耕作が行われていない■月から▼月までに施工するため、営農に支障はなく、また、浄化槽設置後に敷設した排水管により市の水路(下水道)に排水するため、申請地及び周辺の土地、作物等に被害を与えることはありません。
なお、排水先の管理者である日進市▲▲課とは調整済です。